

# 尼崎市下水道中期ビジョンに係る後半期間の評価及び全体最終評価について

## 1 後半期間(平成29年度～令和3年度)における取組の評価

### ●後半期間の投資計画と実績

後半期間の施設建設や改良事業などの投資額は、中間見直し時に予定した計画とほぼ同額の約300億円の実施となり、概ね予定どおりの事業を執行しました。計画では、浸水対策の取り組みの1つとして武庫分区雨水貯留管を整備する予定でしたが、発進立坑の位置など地元との調整を経て見直しを実施したことから、事業費を調整し管渠の改築や設備の改築に振り替えて実施しました。

中期ビジョン後半計画

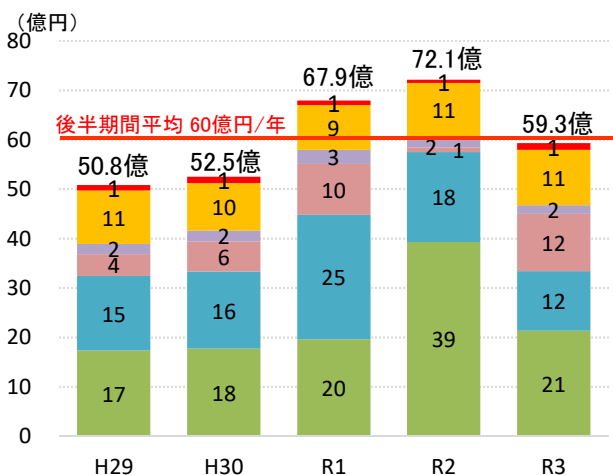
(単位：億円)

	平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	計
改築更新	35.1	23.1	25.4	25.8	29.2	138.6
管渠の改築	18.5	14.0	14.0	14.0	14.0	74.5
設備の改築	15.3	8.8	10.8	11.6	15.0	61.5
計画策定	1.3	0.3	0.6	0.2	0.2	2.6
浸水対策	3.0	25.1	27.3	17.2	17.2	89.8
地震対策	1.4	3.2	2.9	1.1	2.6	11.2
高度処理	10.8	13.1	7.2	18.4	15.6	65.1
合計	50.3	64.5	62.8	62.5	64.6	304.7

中期ビジョン後半実績(令和4年度への繰越を含む)

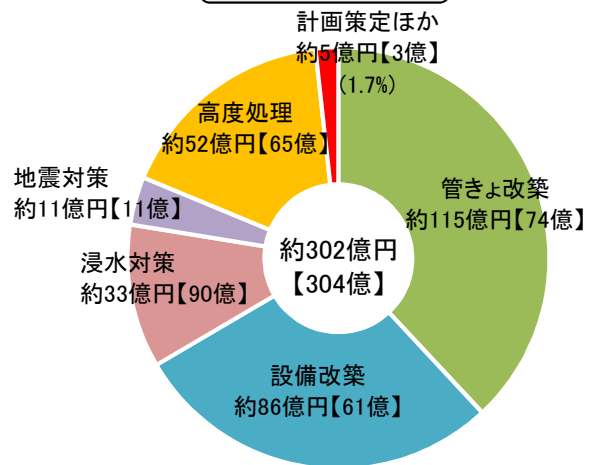
	平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	計
改築更新	33.5	34.6	45.7	58.1	34.8	206.7
管渠の改築	17.3	17.7	19.6	39.3	21.3	115.2
設備の改築	15.1	15.6	25.2	18.2	12.1	86.2
計画策定ほか	1.1	1.3	0.9	0.6	1.4	5.3
浸水対策	4.4	6.1	10.3	0.9	11.6	33.3
地震対策	2.1	2.2	2.8	2.3	1.7	11.1
高度処理	10.8	9.6	9.1	10.8	11.2	51.5
合計	50.8	52.5	67.9	72.1	59.3	302.6

年度別の事業費



(凡例は円グラフと同じ)

後半期間の事業費



【 】は計画数値

## 2 中期ビジョン(平成24年度～令和3年度)で設定した目標に対する評価

### ●目標と実績

中期ビジョンにおいて設定した目標に関しては、次表のとおり概ね達成しました。

三つの目標	具体的な取組	指標	目標	令和3年度末
都市機能の向上をめざす下水道	ア 下水道施設の改築更新	管きよの改築済延長数	28km	25.2km
		設備長寿命化計画による改築済施設数	11施設中11施設	11施設中11施設
	イ 浸水対策	計画降雨確率年	10年確率 (51.7mm/hr)	10年確率 (51.7mm/hr) (事業計画の変更を実施)
	ウ 地震対策	耐震診断実施施設数	11施設中11施設	11施設中11施設
		主要建築物に対する耐震補強件数	11施設中11施設	11施設中8施設
地球環境を守る下水道	エ 合流式下水道改善対策	未処理放流回数半減の施設数	10施設中10施設	10施設中10施設
		きょう雑物(ごみ)の削減(スクリーン目幅を縮小した施設数)	10施設中10施設	10施設中10施設
	オ 高度処理の推進	高度処理化済水処理施設の系列数	北部浄化センター1系列/全3系列	北部浄化センター1系列(着手済)/全3系列
			東部浄化センター1系列/全2系列	東部浄化センター1系列/全2系列
カ 省エネルギー化の推進	省エネルギー化処理水の利用	設備省エネルギー化の推進 自然エネルギー利用	設備の改築更新に合わせ実施	
快適な生活環境を増進する下水道	キ 施設の有効利用	災害時の避難スペース	津波時等一時避難場所としての指定を可能な限り拡充	津波等一時避難場所として指定 (北部浄化センター管理棟他5棟)
	安定経営の継続	事業費の平準化	現行使用料を可能な限り維持	現行使用料を可能な限り維持

※ 目標達成済みはピンク、未達成は青で示す。

### 【未達成項目に係る補足】

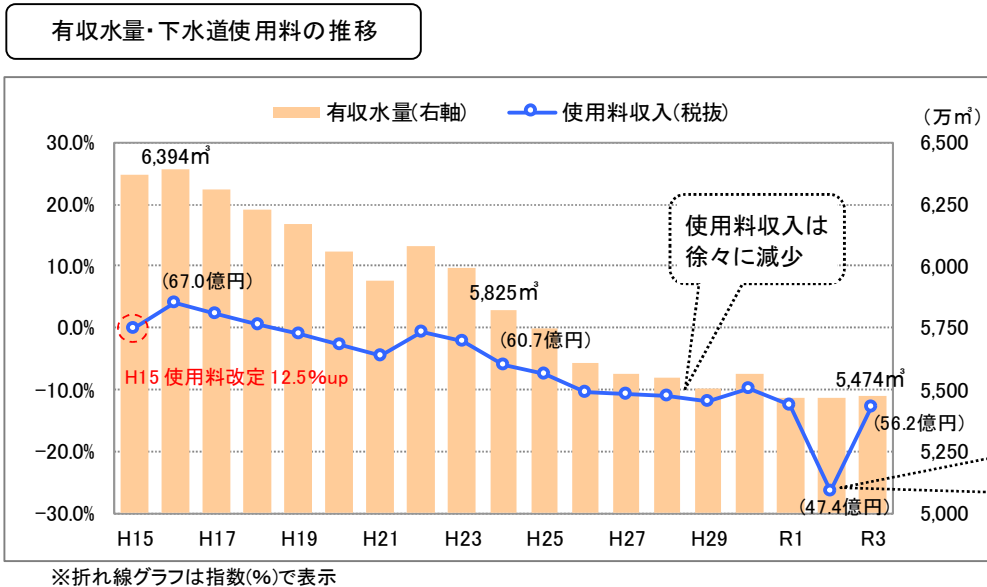
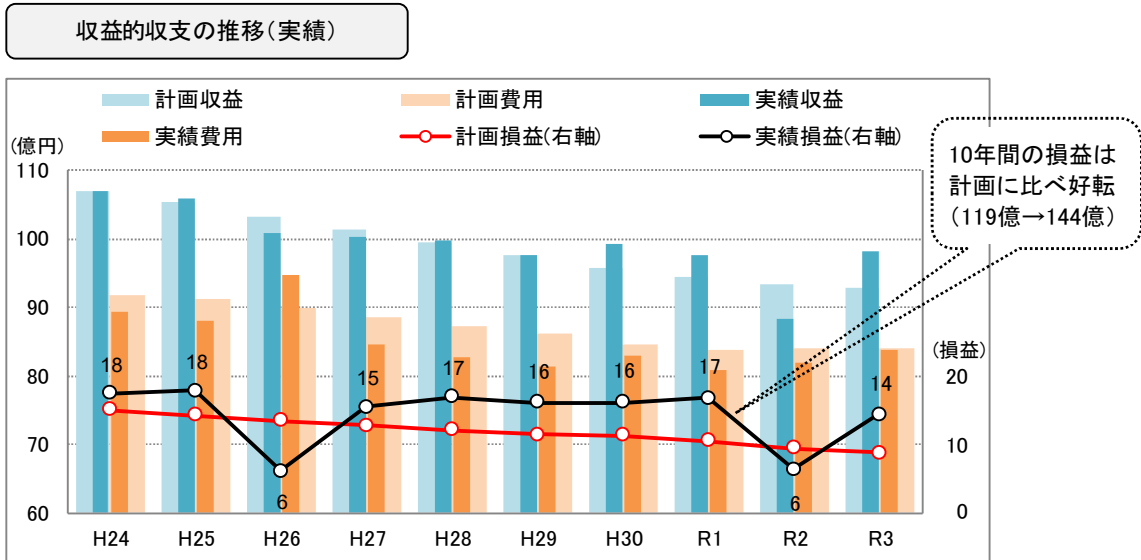
「下水道施設の改築更新」、「地震対策」、「高度処理の推進」の中に未達成の項目がありますが、令和4年度からスタートしている「あまがさき下水道ビジョン2031」において、引き続き取り組んでおり、安心・安全な下水道事業を推進していきます。

### 3 中期ビジョンにおける財務・経営面及び全体の評価

#### ●10ヶ年の財務・経営面の収支計画と実績

損益全体では、119億円の計画に対し実績では144億円と25億円のプラスとなり、計画に比べ好転した結果となりました。

収益の好転で得た利益は建設改良積立金へ積立し、将来の事業費への充当財源とすることで借入金を抑制し、利息負担の軽減や企業債残高の縮減へとつなげていきます。



#### ●中期ビジョン全体の評価

全体の評価としては、中期ビジョンにおいて設定した目標に関して、施設の改築更新、合流式下水道の改善、高度処理など、概ね計画どおり達成しています。

また、経営面についても、下水道使用料収入の減少が続く中、アウトソーシング（民間委託）の実施や借入金の抑制など、安定的な経営に努めた結果、純利益（黒字）を確保できており、当面の間は、現行の下水道使用料を維持できる見込みとなっています。

なお、一部未達成の項目については、令和4年度からスタートしている「あまがさき下水道ビジョン2031」において、「尼の下水道を次の世代へ」という基本理念のもと、引き続き取り組みを推進しています。